

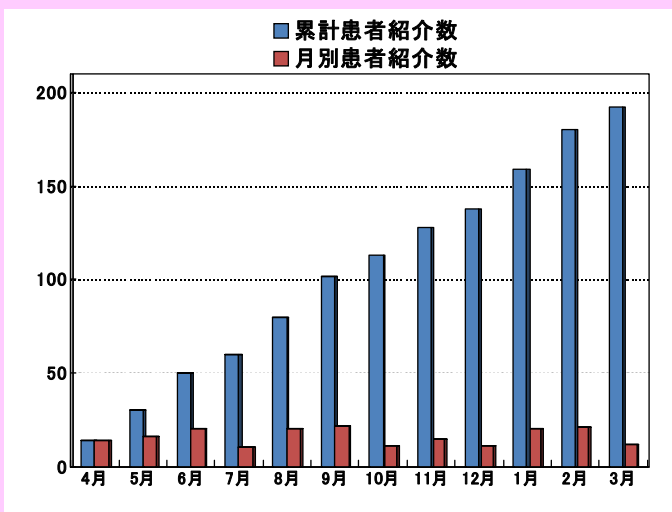
がん早期診断研修会開催

腫瘍センターでは、がん診療連携拠点病院の活動の一環として、平成23年2月18日(金)に臨床大講堂において、国立がん研究センター東病院臨床開発センター 中面哲也先生を招き、「画像診断よりも早くがんを見つけない」と題し講演会および合同カンファレンスを開催しました。

この研修会ががん診療連携拠点病院機能強化事業として義務づけられており、毎回テーマを厳選して開催しているものです。今回は、血液検査の数値等からがんを超早期に発見するという異色のテーマであるにもかかわらず、多くの医療関係者の参加があり、公演後の合同カンファレンスでも活発な意見交換がなされ、盛況裡に修了しました。



緩和ケアチーム実績



グラフ1

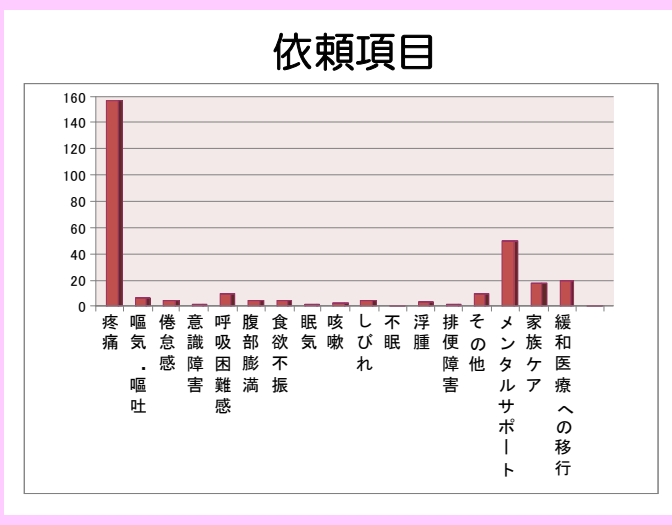
緩和ケアチームが、本格稼働し4年目の春を迎えました。この間、チームへの新規紹介患者数は200名前後で推移し、安定した実績となっています。

昨年度の緩和ケアチームの実績について少し詳しく紹介させていただきます。

新規紹介患者数は(再紹介含む)192名で、日々訪問した述べ人数は5214名となります(グラフ1)。

依頼内容は、疼痛緩和が80%を占めますが、実際に介入を開始すると他の症状も重複し抱えているケースが多く、他の身体症状や精神的サポートも併行して緩和ケアを提供しています(グラフ2)。

介入日数は、21日以内が半数近くを占めています。介入患者さんは、治療中の患者さんも多く、転帰に関しては退院が最も多く、次に転院、死亡の順となります。



グラフ2

今年度はチームに新たなメンバーも加わり、さらにパワーアップしたチームで、病棟の皆様とチーム医療の推進ができればと思っていますので、つらい症状がある時は、いつでも気軽に緩和ケアチームにご相談ください。

スタッフ体制が充実しました

腫瘍センターでは、この4月から助教に藤井あけみ先生、医員に川本泰之先生、桂有希先生、看護師1名を増員し、いっそう充実した体制で診療やサポートにあたっています。

なかでも緩和ケアチームに着任した藤井あけみ助教は、チャイルドライフスペシャリストであり、主に小児科病棟等で闘病中の小児患者やその家族のメンタルケアなど、小児にかかわる様々なサポートを軸に活動します。5月16日からはピアサポートの一環として定期的に、20歳未満のお子さんをお持ちのがん患者サロン「わかばカフェ」も開催します。

また、がん相談支援室看護師の石岡明子さんががん看護専門看護師の認定を受けました。これにより、今まで以上に患者さんやその家族のサポート、関係スタッフとの連携調整など、質の高い看護ケアを展開していきます。



藤井あけみ助教

研修会のお知らせ

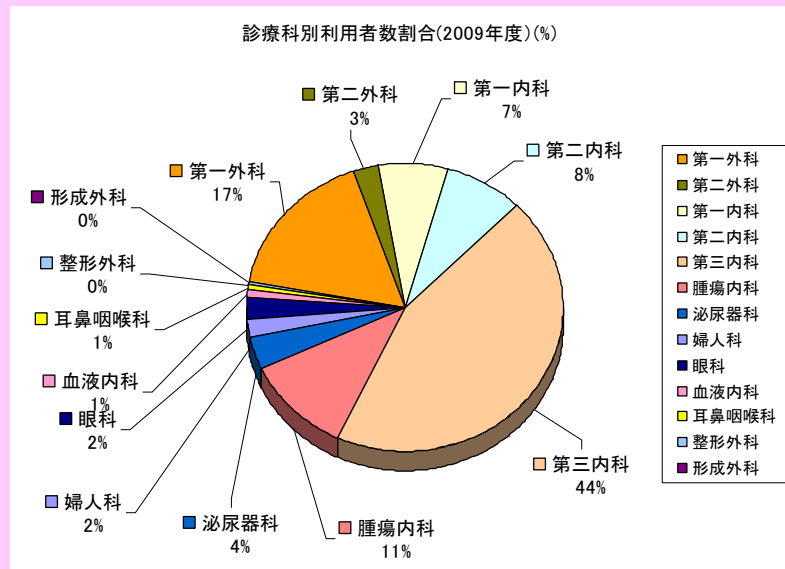
★腫瘍センターセミナー

- 5月19日(木) (第1ゼミナール室)
 - 「がん看護専門看護師の役割と活動」
 - 「腫瘍センター化学療法部(外来治療センター)の紹介」
- 6月16日(木) (臨床大講堂)
 - 「抗がん薬の臨床薬理学」
 - 「分子標的薬の薬理学」

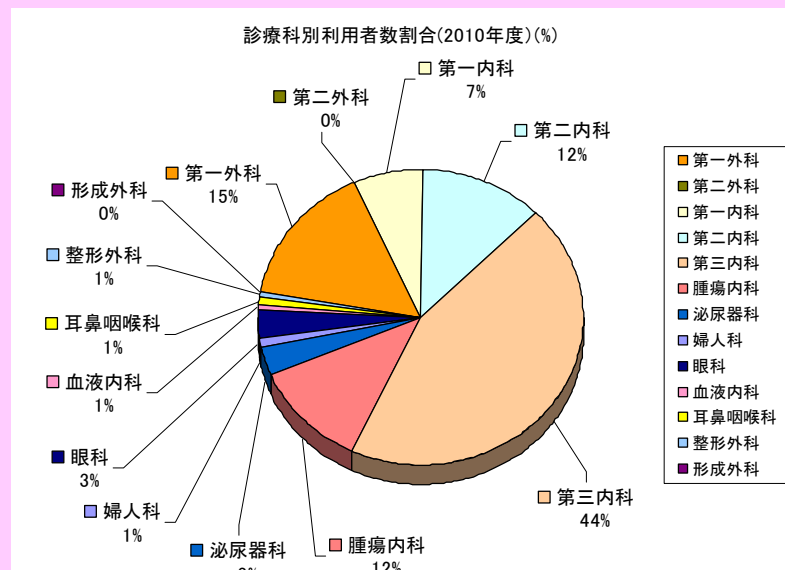
★地域がん診療連携拠点病院研修会 (医学部フラスコ会館大研修室)

- 6月25日(土)～26日(日) 「北海道大学病院緩和ケア研修会」
(申込は締め切りました)

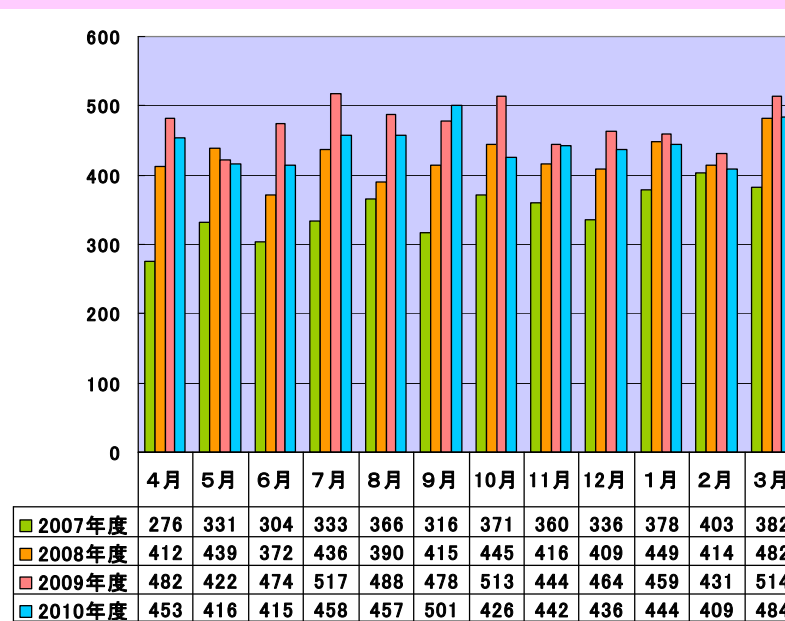
化学療法部利用実績



グラフ3



グラフ4



グラフ5

化学療法部(外来治療センター)における2007年度～2010年度の利用実績をご紹介します。診療科別(グラフ3、4)を比較すると、内科系の利用が微増していますが、外科系の利用が減少しています。症状によって外来化学療法の適応が難しいケースが多いと思いますが、積極的に利用していただきたいと考えております。

また、年度別月別(グラフ5)を比較すると、2009年度まで順調に伸びていた利用者数が、2010年度は減少に転じています。外来治療センター当番医等ご負担になることあるとは思いますが、該当する患者さんを担当されている先生方のご利用をお待ちしております。



ご意見ご感想などはこちらまで...

医事課医療支援室地域医療連携係
Email: itiki@jimu.hokudai.ac.jp